



2005年(平成17年)4月26日(火)

第5283号 (購読料金 月額税込み4,300円)



◇昭和28年5月30日 第3種郵便物認可
◇毎週2回火・金曜日発行(但し祝日を除く)
◇発行所 東京都中央区銀座5丁目15番8号時事通信社
電話 (03) 6800-1111◇郵便番号104-8178
©時事通信社2005

社会復帰施設間パス

今私は、精神科病院での「入院」から「社会復帰施設」入所まで、さらにそれからの社会での自立支援までのスパンの長いクリニカルパスを考えている。去年の十月に改革のグランドデザイン(案)が提出されたこともあって、当医療法人で行っている社会復帰施設間の流れの妥当性を検討してみた。

各施設の入所者の全体的評定尺度GAF(Global Assessment of Function)を測って比較した。生活訓練施設(援護寮)に申し込んでいる二十人ほどの入院中の患者さんのGAF得点は平均46・20点、生活訓練施設入所中の二十人の平均のGAF得点は51・30点、B型施設ホームの

医療法人西浦会
理事 長 西浦信博



GAF得点平均は59・63点、生活支援センターの二十人のGAF得点平均は63・85点となった。GAF得点を40点台から60点台まで横に並べると、右肩上がりとなり、各施設に入所中のメンバーのレベルの違いがよく表されており、施設間のメンバー移動が状態に応じてスムーズに行われていることが分かった。

これはGAF得点の結果を表現しただけで、このように社会復帰施設を経営しなければならぬというわけではない。この十年間に試行錯誤して運用してきたことが、報いられたのかと勝手に喜んでいるだけである。院長として長年の勤で、「あの人を退院させて、あの人をB型福祉ホーム

に移して下さい」と指示してきただけである。入退所者を評価するメジャーとして、GAFよりももっと鋭敏な物差しが欲しいと思っている。しかし、今は臨床医の判断に頼るしかない。院長は精神科病院の患者さんを診ているときよりも、さらに広い「社会的」視野を持つことが求められる。チームの皆が経験を積んで、組織員として大きな視野から全体を見られるようなリーダーになってほしい。施設間の移動がスムーズにかつ科学的に行われるような日が早く来ることを祈っている。

本年五月に、障害者自立支援法が国会を通過する見通しになっている。今までの社会復帰施設の目的も内容も変わるだろう。しかし社会復帰施設の入退所の判断を、GAFその他での測定で、数値化しながら「パス」を進められるように早くしたいと希望している。